



情報の集め方と利用の方法

1. 講座の開始にあたって

東京工業大学助教授・工博 ^{きし}岸 ^だ田 ^{ひで}英 ^{あき}明

1.1 まえがき

工事や研究などを新しく始めたり、またはその進行中に困難な問題に出会う場合、過去においては経験の深い先輩から助言をいただくとか、文献を調査して解決の手がかりを見つけないというようにして、工事や研究などが進められて来ていた。最近では、前述の助言とか文献の調査のようなことを全て含めたものとして「情報」(Information)という言葉が使われており、そのようなもののなかからどれが役に立つかを要領良く調べ探し出すこととして「検索(Retrieval)」という言葉がある。

Information Storage and Retrieval (情報の蓄積と検索)という言葉はアメリカにおいて 1950 年代の前半から使われ始めている。このことはわれわれが以前から行っていたことが一つの仕事として確立されるだけの重要性を持ってきたと考えられよう。また別の面から考えると、最近における情報の急激な増加(文献の増加は指数関数的傾向を示している)により、以前には片手間に行なえたことが、最近では本格的に取り組まなくてはならなくなり、その結果情報検索の重要性が認識されたともいえる。

一般的な傾向として科学技術の研究分野における研究の重複は約 50% 程度であり、研究者や技術者は文献の調査などに全仕事時間の約 20% 程度を費やしているといわれている。情報検索のシステムが合理化されれば前述の無駄に使われているエネルギーを減らすことが出来る。このために国際土質基礎工学会においては以前からこの種の仕事をこなしてきており、その成果が Geotechnical Abstracts や国際土質工学分類となって表われている。日本土質工学会においても国際土質工学分類を採用し、またキーワード(Key words)(案) (『土と基礎』第 19 巻、第 12号, pp. 55~63) を作製して日本において出版された文献の整理を行なうなどの仕事が情報委員会を中心に行なわれている。

片手間に文献を探すということではなく、情報検索というシステムによって仕事をこなすことが要求される時に、情報の集め方と利用の方法について各人が勉強しておくことは必要である。このことを直接の専門としている、特殊法人 日本科学技術情報センターの園田桂一氏を

中心にして情報に対する考え方、土質工学関係における現況および国内における情報管理の実例などを会員諸氏に分りやすく説明することを目的として執筆されたのが今回の講座である。

1.2 講座の内容

この講座は「情報の集め方と利用の方法」という名称で約 9 回にわたり掲載される予定である。講座の内容は、

1. 情報についての一般的な知識
2. 資料の整理と保管
3. 分類、キーワードとシソーラス
4. 抄 録
5. 情報検索
6. 土質工学関係の情報の現況
7. 官公庁における情報管理の実例
8. 民間会社における情報管理の実例
9. あとがき、チェックリスト

よりなる。

1～5 までは情報管理としての一般的な項目を、具体的な例をあげて分りやすく解説し、特に 4、抄録においては役に立つ抄録の作り方(いわゆる報知的抄録 Information abstracts)、5. 情報検索においてはカード・システムや電子計算機の利用などを説明する予定である。

この講座は土質工学会の委員会の成果をまとめて解説するものと異なり、土質工学とは直接に関係のない事柄を会員諸氏に紹介し、また解説することを目的としている。この点が今迄の講座「土の動的性質」とは異なっており、内容にも取付きにくい点があるかもしれない。

現在の日本でも弁護士に法律に関する質問をすれば、その返事に対して報酬を支払うことは常識であり、また化学や電子工学の分野では特許とかノウハウという形で情報の価値が重要に扱われている。これに対して、今迄の土木・建築などの分野では他人に物事を聞くことは無料であるという、情報の価値を軽視する傾向が強かったと思われる。しかし情報を無料で入手出来るということが土質工学の分野においても徐々になくなり、情報の価値が重要視されつつある時に、この講座が会員諸氏の情報に対する認識を高めることの一助になることを期待している。